

図書館だより



No.186

2013(平成25)年6月5日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Tel 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<http://www.library.fks.ed.jp/>



NHK大河ドラマ「八重の桜」、みなさんご覧になっていますか？5月19日の第20回の放送では鳥羽伏見の戦いも勃発、いよいよ鶴ヶ城での八重の籠城という中盤の山場ともいえるストーリー展開を迎えています。当館ではドラマ「八重の桜」のクライマックスに合わせ、新島八重本人が会津戦争と夫・新島襄について語った談話記事「男装して会津城に入りたる当時の苦心」を掲載した雑誌や、当館で所蔵する明治期の雑誌を中心に展示コーナーで紹介します。

展 示

明治期の雑誌



展示期間 平成25年6月7日(金)～平成25年9月4日(水)

新島八重がスペンサー銃を持ち、若松城へ籠城したのが慶応4年8月23日(1868年10月8日)。そのほぼ一年前の慶応3年(1867年10月)に創刊された『西洋雑誌』が日本で最初に発行された雑誌と言われています。今回の展示では、創草期を振り返るとともに、明治期後半から大正期にかけての女性解放運動とともに発展した女性雑誌にも光を当てます。『婦人世界』で明治42年当時、八重本人が語った記事「男装して会津城に入りたる当時の苦心」(『月刊ジェイ・ノベル』2013年1月号で複製)も掲示しますのでぜひご覧ください。

館内展示 も合わせてご覧ください！

「八重の桜」～新島八重を知りたい～

期間 展示中(終了日未定)

場所 貸出カウンター付近



「八重の桜」関連本

大好評・展示中！！

綾瀬はるか

特大ポスターが目印！

夏のロビー展示 ロビー展示コーナー(軽読書コーナー前通路)にて開催

◆『津波も瓦礫もない写真展』 期間 6月7日(金)～7月3日(水)

「3.11をわすれない写真家の会」による写真展

◆『FTVカルチャーセンター写真講座作品展』 期間 7月5日(金)～7月31日(水)

FTVカルチャーセンター写真講座受講生の作品を展示

◆『第2回 えがく会 油絵作品展』 期間 8月2日(金)～9月4日(水)

油絵の会会員による油彩画の展示

☆ロビー展示作品募集中！あなたの作品を展示してみませんか？(詳しくは児童資料カウンターまで)

雑誌愛読月間

『世の中のちょっと先、雑誌で読もう。』

7月21日～8月20日は雑誌愛読月間です。

新着案内

各分野の担当者が選んだ、お勧めの新着資料をご紹介します。

人文・自然

『ぶらり日本全国「語源遺産」の旅』

わぐり たかし／著 中央公論新社
2013.3 812/7夕 133

語源ハンターを名乗る著者が、言葉が生まれた舞台を訪ね、その背景に秘められた物語を探ります。「十八番」と書いてなぜ「おはこ」と読むのか、そしてその箱とは？「やぶ医者」の本来の意味は腕の悪い医者のことではなかったなど、語源をたどる旅により謎が解き明かされていきます。言葉は生活や体験の中から生まれるもの。日本語の奥深さを再認識させられます。

『サボリ上手な動物たち：海の中から新発見！』

佐藤 克文・森阪 匡通／著 岩波書店
2013.2 481.72/幼 132

海に棲む動物を観察するのは人間にとって難しいものです。しかし、研究者の熱意が水中観察管、深度記録計などのユニークな道具や、カメラ、音響機器による観察技術を生み出してきました。

この本では、新たな研究からわかってきた、海洋動物の意外な行動や能力を垣間見ることができます。著者曰く「動物の最大記録（つまり能力）に着目するのはナンセンス」。真意はいかに？

社会

『災害復興の日本史』

安田 政彦／著 吉川弘文館
2013.2 210.17/ヤ 132

日本は古来より、地震、噴火、風水害、飢饉・干ばつ等、様々な激甚災害に見舞われてきました。では、私たちの祖先は今まで具体的に一体どんな災害に遭い、また人々はそこからどうやって立ち上がってきたのでしょうか。

当時書かれた貴族・武士・公家等の日記類や、後世の史書等の歴史資料からは、わずかながらも、当時の災害の様子や被災の状況を伺い知ることができます。本書では幾つかの巨大災害を時代別・災害別にとりあげ、史料の中に垣間見える復旧・復興の模様を描き出しています。

『女ノマド、一人砂漠に生きる』

吉本 佳生／著 筑摩書房
2013.3 331.19/㊦ 133

ノマドとは、遊牧民のこと。夫とも子どもとも離れ、エジプトの砂漠でひとりラクダと共に暮らす女性遊牧民・サイダ。著者は彼女のもとを何度も訪れ、共に遊牧の旅をし、時に戸惑いながら共に暮らし、そして話を聞いていきます。急速に変わりつつあるイスラム社会の中で、たくましく生活する女性たちの実像を描くノンフィクションです。

雑誌・新聞

アベノミクスの効果は果たして本物か？復活の兆しを見せる経済への期待を込めて「お金・株・不動産」をキーワードにご紹介します。

* 「日本株大波乱！それでも上がる36銘柄」

Z/051/S35『週刊朝日』2013.6.7号

* 「まだ間に合う！日本株大作戦」

Z/330.5/T4『週刊東洋経済』2013.6.1号

* 「投資大全」

Z/330.5/E1『エコノミスト』2013.4.30/5.7号

* 「円安株高」

Z/330.5/E1『エコノミスト』2013.4.23号

* 「新株入門 スラスラわかる！賢い投資術」

Z/330.5/S7『週刊ダイヤモンド』2013.3.2号

* 「親子で選ぶ老後の住まい

老人ホーム VS サービス付き高齢者住宅」

Z/330.5/S7『週刊ダイヤモンド』2013.4.27/5.4合併特大号

* 「少しは増やしたい…だけど絶対に減らしたくない人のために今すぐ出来る65歳からの賢いお金の使い方」

Z/051/B2/2『文藝春秋 SPECIAL』2012年冬号

地域

『青春レボリューション』

大鳥 研二／著 幻冬舎ルネッサンス
2012.12 L913.6/017/1

1970年、信夫山南西のふもとにある男子校の新聞部を舞台に、17歳の主人公の1年を描く青春小説です。安保改訂や学生運動などで揺れ動く社会の中で、当時の福島の高校生がどんなことを考え、地方から社会をどのように見ていたか、興味深く読むことができます。また、当時の駅前や信夫山の風景など、知る人にとっては懐かしく読めるのではないのでしょうか。

小難しいことを考えているようでいて、ほぼすべての行動原理が“近くの女子高に通う女の子といかにお近づきになれるか”で占められているところも面白く読める1冊です。

『差別と反逆 平野小剣の生涯』

朝治 武／著 筑摩書房
2013.1 L289/H76/2

戦前の部落解放運動団体、全国水平社創立の中心メンバーであり、ただ一人の東北人であった平野小剣。福島県の被差別部落に生まれたことから、部落民が自らの手で解放をめざすことの重要性を痛感し、東日本へ水平運動を広げて行きます。華々しい活躍の一方で、スパイ問題を理由に水平社を除名されてからは、国家主義運動に転ずるなど、その人生は時代とともに激しく移り変わって行きます。彼が求めた解放とは何だったのでしょか。生涯を描く本格評伝です。